

令和3年度「救急医療に関するアンケート」 集計結果の活用状況

アンケートテーマの担当部署が、アンケート結果をどのように受け止めたのか、事業にどのように活用しているのかなど、集計結果の活用状況をご紹介します。

1 アンケート結果の事業等への活用状況

Q14の「横浜市の救急医療体制について、ご意見がありましたらご記入ください。(自由意見)」において「救急医療体制についてだれもが把握できるような状況になるよう、広報活動を行ってほしい」、「横浜市の救急医療体制についても事前に理解しておこうと思う」等の意見がありました。救急医療体制に関する広報は、これまでも広報よこはまへの掲載やリーフレットの作成等による広報を行ってきましたが、今後は様々な媒体で市民の方々の目に触れる機会を増やして行きたいと考えています。

2 アンケートを実施した感想

Q3の「夜間・休日に急な病気やけがをした際にはどのように対応しますか」の質問において、「イ #7119に電話」と回答された方が30.7%であった一方で、「ウ インターネットを利用する」と回答された方は60.1%と多く、インターネットによる情報収集が大きなウエイトを占めていることがわかりました。

そして、Q8の「横浜市の救急医療体制は、他都市に比べて充実していると思いますか」の質問において、「エ そう思わない」と回答された方は8.9%となり、Q10の「そう回答した理由」への回答として「イ 救急医療体制についての情報が不足している」が最も多い74.0%となったことから、市民への情報提供についてはまだまだ不足していることがわかりました。

ご記載いただいた様々な広報手段に関するアイデアなどは、今後広報を行う際の参考にさせていただきます。

3 担当部署のeアンケートメンバーへのメッセージ

この度は、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

いただいた様々なご意見を参考に、本市救急医療体制や、「横浜市救急相談センター（#7119）」等の広報活動業務の改善につなげていきたいと思っております。

横浜市では、限られた医療資源を有効に活用し、より適切な医療を提供するため、救急医療機関の持つ医療機能に応じて初期・二次・三次、疾患別等に分けて救急患者の受入体制を整備しています。急な病気やケガのとき、医療機関の受診について迷ったら、ぜひ「#7119」を有効活用してください。

担当：医療局医療政策課

ヨコハマ e アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。